



管理ツール 操作マニュアル

S01-01 データ抽出設定

株式会社 NTTデータ NJK

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社 NTT データ NJK にあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されています。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社 NTT データ NJK の登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記	S01-01_0
1.DataNature Smart 全体概要図	S01-01_1
2.事前設定	S01-01_2
2-1 ODBC 設定	S01-01_2
2-2 別名設定	S01-01_3
3.基本操作	S01-01_5
3-1 ジョブの作成	S01-01_5
◆抽出条件設定	S01-01_5
Step1: テーブル選択	S01-01_7
Step2: テーブル結合	S01-01_8
Step3: カラム選択	S01-01_10
Step4: データ選択条件	S01-01_12
Step5: 抽出プレビュー	S01-01_14
◆ジョブの設定	S01-01_15
3-2 抽出条件の修正	S01-01_17
3-3 変数利用設定	S01-01_18
◆DN 管理ツールでの設定	S01-01_18
◆抽出条件ファイルを DN クライアントで読み込む	S01-01_20

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール
DataNature Smart クライアント :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス
<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

◆ マニュアルで使用している画像について

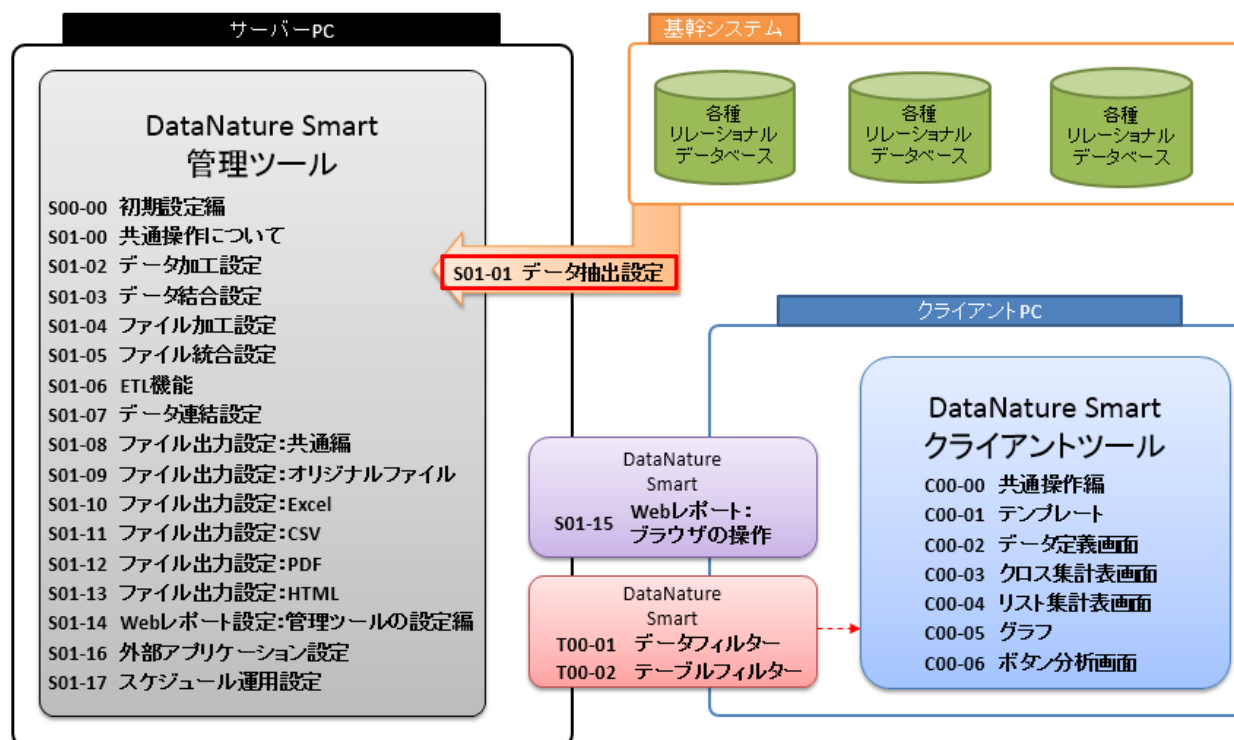
マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

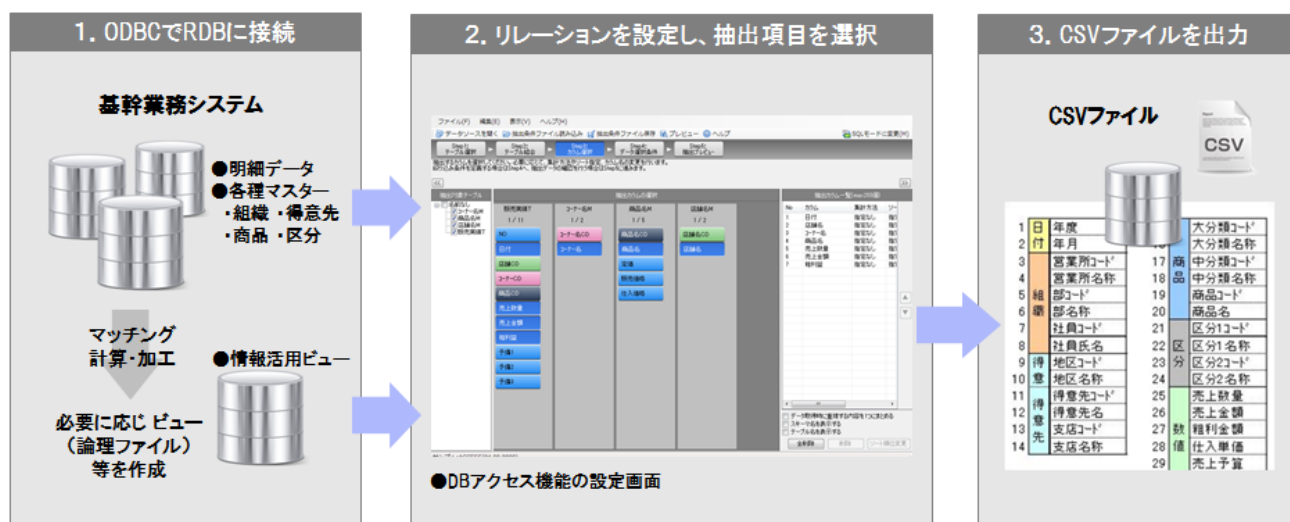
1. DataNature Smart 全体概要図

本マニュアルでは、S01-01 データ抽出設定について記載しています。



RDB からデータを抽出し、CSV 形式でデータを保存します。

- ODBC 対応の RDB へ接続可能 (Oracle、SQLServer、DB2 等)
- 操作は、ボタンを押すだけの操作
- ボタンで作成した抽出定義を SQL 展開、編集可能



2. 事前設定

[データ抽出設定]では、Oracle や SQL Server などの DBMS へ ODBC 経由でアクセスする際の前準備として、「ODBC 設定」を行う必要があります。

また、テーブル名やカラム名を分かりやすい名称に変更する[別名設定]を事前に行えば、分析に必要なデータを見分けやすくすることができます。



DataNature Smart (64bit 版)をご使用のとき、ODBC ドライバーは 64bit 版が必要です。

DataNature Smart (32bit 版)をご使用のとき、ODBC ドライバーは 32bit 版が必要です。

2-1 ODBC 設定

DBMS にアクセスするためには、事前に対象の DBMS を ODBC データソースに追加しておく必要があります。

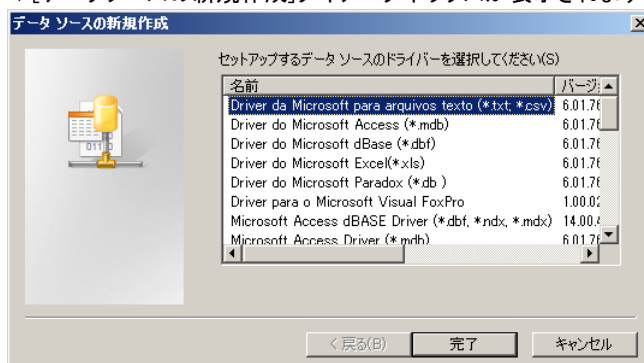
1. メニューバーの[ツール]-[ODBC 設定]を選択します。

▼[ODBC データソースアドミニストレーター]ダイアログボックスが表示されます。



2. [システム DSN]タブで[追加]ボタンをクリックします。

▼[データソースの新規作成]ダイアログボックスが表示されます。



[データ抽出設定]で指定できるデータソースは、[システム DSN]に登録されたデータソースのみです。必ず、[システム DSN]タブで追加してください。



Microsoft 社提供の Oracle 用 ODBC ドライバーには使用制限があり、正常に動作しない可能性がありますので、Oracle 社提供の ODBC ドライバーをご使用ください。



ODBC ドライバーの入手方法やインストール方法等については、ご利用の製品を提供している各社へお問い合わせください。弊社サポートセンターでは、ODBC 設定の詳細に関するお問い合わせを受け付けることができません。あらかじめご了承ください。

2-2 別名設定

別名設定では、[データ抽出設定]で利用する DBMS のテーブル名やカラム名を、必要に応じてわかりやすい名称に編集することができます。和名に変更しておけば、抽出条件の設定もスムーズに行えます。また、その設定を保存して、エクスポート/インポートすることも可能です。

- 1 メニューバーの[ツール]-[データソースの管理]から[別名設定]を選択します。

▼[データソースを開く]ダイアログボックスが表示されます。



[データソース名]に表示される名称は、ODBC 設定の[システム DSN]に登録されているデータソース名です。ODBC 設定を行っていないデータソースは表示されません。

- 2 [データソース名:]のドロップダウンリストから対象のデータソース名を選択します。必要に応じて、選択したデータソース名のユーザー名とパスワードを入力します。[設定を保存する]にチェックオンすると、次回から自動表示されます。起動時に特定のスキーマを開くときは、[所有者(スキーマ)]にチェックオンし、所有者名(スキーマ名)をテキストボックスに入力します。
- 3 [接続]ボタンをクリックします。

▼[DataNature Smart 別名設定]画面が表示されます。

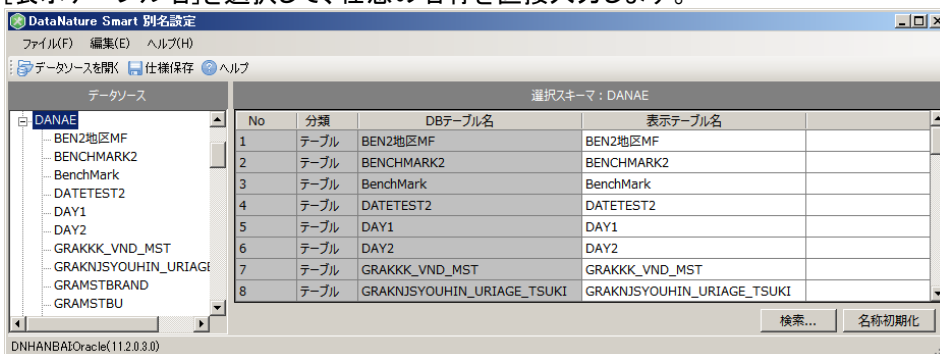
画面には、[データソース]と[テーブル一覧/カラム一覧]の2領域があります。

- [データソース]領域 : データソース内のスキーマとテーブルの一覧をツリービュー形式で表示します。
- [テーブル一覧/カラム一覧]領域 : 選択したスキーマのテーブルやカラムを一覧表示します。



セキュリティが強い DBMS では、接続したユーザー名によってスキーマやテーブルが見えない場合があります。DBMS 管理者に連絡して参照権限を付与するなどの処置を行ってください。

- ④ [データソース]領域からスキーマ名を選択すると、右領域にテーブル名が表示されます。名称の編集を行いたい[表示テーブル名]を選択して、任意の名称を直接入力します。

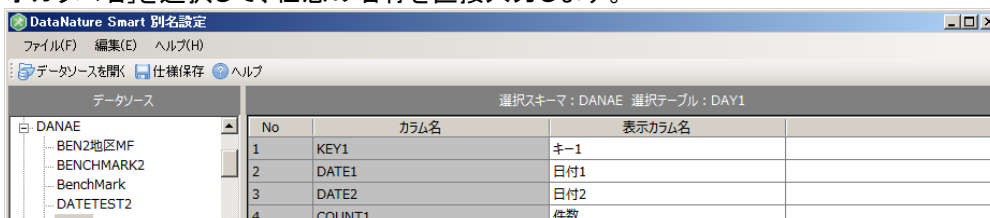


表示テーブル名や表示カラム名を DBMS の名称に戻す場合は、戻したい項目の内容を削除してください。また、右下の[名称初期化]ボタンをクリックすると、編集していたすべての名称を戻すことができます。



別名設定する項目が多い場合、このデータソースをエクスポートして名称変更の編集・保存を行い、インポートすることも可能です。メニューバーの[ファイル]からエクスポート、インポートを選択してください。エクスポートの形式はカンマ区切りのデータなので、Excel などのアプリケーションで編集できます。

- ⑤ [データソース]領域からテーブル名を選択すると、右領域にカラム名が表示されます。名称の編集を行いたい[表示カラム名]を選択して、任意の名称を直接入力します。

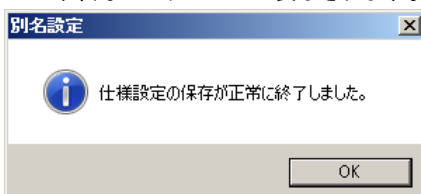


- ⑥ 全ての編集が完了したら、設定した内容を保存します。



[仕様保存]アイコンをクリックします。
(メニューバー[ファイル]-[仕様保存])

▼正常終了のメッセージが表示されます。



- ⑦ [OK]ボタンをクリックします。

- ⑧ メニューバー[ファイル]-[管理ツールに戻る]をクリックします。



仕様保存されているデータソース名と、ODBC 設定のデータソース名が一致していないものがある場合には、メニューバーの[編集]-[仕様設定不一致]ダイアログボックスで確認することができます。



ODBC データソース名や DBMS 側の定義を変更した場合には、本製品にて設定した仕様を利用できなくなります。

基本操作

3-1 ジョブの作成

[データ抽出設定]では、Oracle や SQL Server などの DBMS へ ODBC 経由でアクセスし、分析に必要なデータを抽出して、テキストファイル(*.csv)形式で出力することができます。

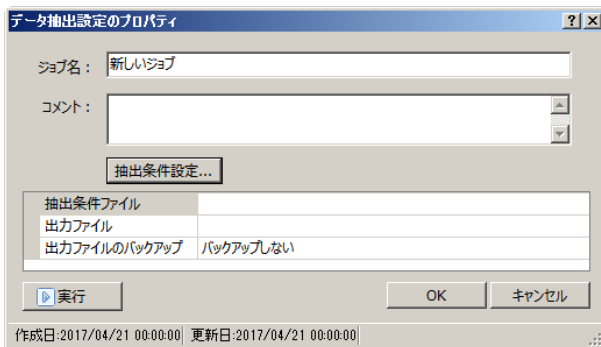
◆ 抽出条件設定

[DataNature Smart データ抽出設定画面]で、抽出条件ファイル(*.ecox)を作成します。



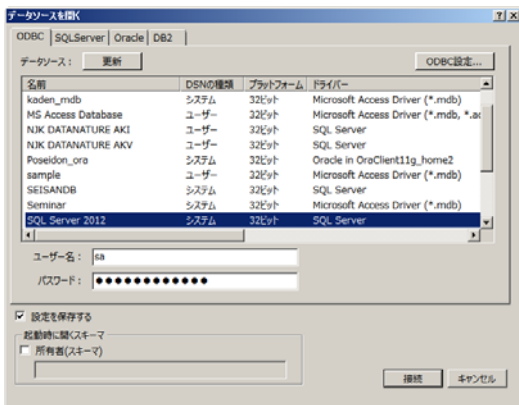
DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]ノードをクリックし、メニューバー-[ジョブ設定]-[ファイル操作系作成]-[データ抽出設定]をクリックします。
([DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[データ抽出設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいジョブ])

▼[データ抽出設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



[抽出条件設定]ボタンをクリックします。

▼[データソースを開く]ダイアログボックスが表示されます。



[SQL Server][Oracle][DB2]タブは、ネイティブドライバの情報を表示しています。(データ抽出ツールではこれらのタブは表示されず、ODBC 設定の情報のみ使用できます。)



ODBC ドライバーよりもネイティブドライバで接続した方が処理が速くなることがあります。データ量や環境に依存しますので、実際に動作を確認いただき、どちらのドライバを使用するのかご判断ください。



[データソース:]一覧に表示される名称は、ODBC 設定の[システム DSN]に登録されているデータソース名です。ODBC 設定を行っていないデータソースは表示されません。ODBC 設定の手順は、S01-01_2「2-1 ODBC 設定」を参照してください。



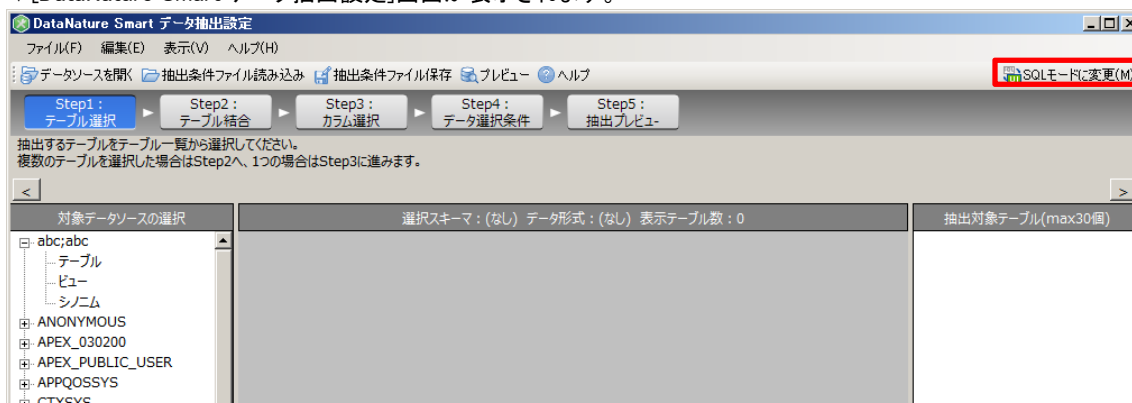
[データソース:]一覧から対象のデータソース名を選択します。

必要に応じて、選択したデータソース名のユーザー名とパスワードを入力します。[☐設定を保存する]にチェックオンすると、次回から自動表示されます。

起動時に特定のスキーマを開くときは、[☐所有者(スキーマ)]にチェックオンし、所有者名(スキーマ名)をテキストボックスに入力します。

4 [接続]ボタンをクリックします。

▼[DataNature Smart データ抽出設定]画面が表示されます。



画面には、2 種類の設定モードがあります。ツールバー右端のアイコンでモードが切り替えられます。

- UI モード : マウス操作中心で、SQL 文を知らない方でもデータ抽出が行えます。
- SQL モード : 直接 SQL 文を作成することにより、柔軟なデータ抽出が行えます。



SQL モードは、UI モードの途中からでも切り替え可能です。[Step3:カラムの選択]まで設定していれば、UI モードで設定した情報を元に SQL 文が自動展開されるため、SQL 文作成の手間を軽減することができます。

5 基本操作では、[UIモード]画面を利用します。

UI モードでは、[Step1:テーブル選択]～[Step5:抽出プレビュー]の 5 つの手順で抽出を行います。抽出する内容によって、設定が不要な Step もあります。

Step 名称	設定内容	設定が不要になる条件
Step1: テーブル選択	抽出するデータのテーブルを選択します	なし
Step2: テーブル結合	テーブル間のカラムの結合条件を設定します	Step1 で 1 つのテーブルだけを選択した場合
Step3: カラム選択	抽出するカラムを選択します	なし
Step4: データ選択条件	抽出するデータの選択条件を定義します	データの絞り込みを行う必要がない場合
Step5: 抽出プレビュー	抽出するデータの件数や内容を確認します	なし

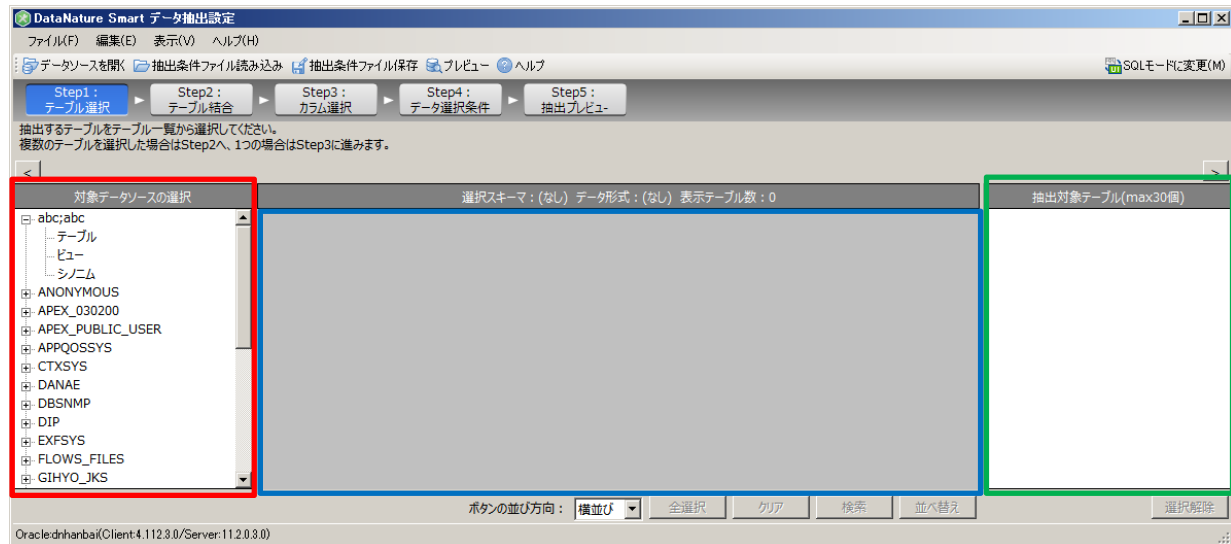
それでは、各 Step の基本的な操作手順を見ていきましょう。

Step1: テーブル選択

抽出するテーブル(ビュー、シノニムも含みます)を選択します。

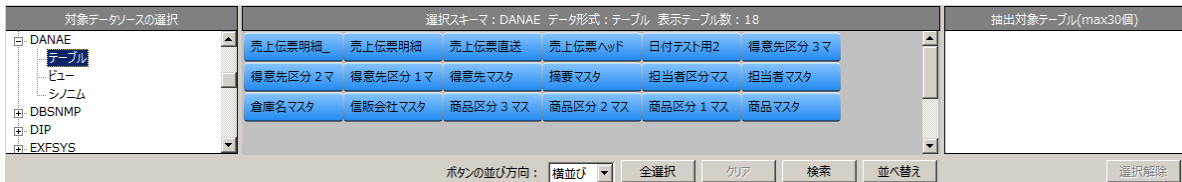
画面は、[対象データソースの選択]、[テーブル表示](画面中央)、[抽出対象テーブル]の3つの領域で構成されます。

[対象データソースの選択]と[抽出対象テーブル]は、領域上部の左右にある[<<]、[>>]ボタンで開閉できます。



- ① 左側の[対象データソースの選択]領域から、抽出したいテーブルを含んでいるスキーマとテーブルの種類(テーブル/ビュー/シノニム)を選択します。

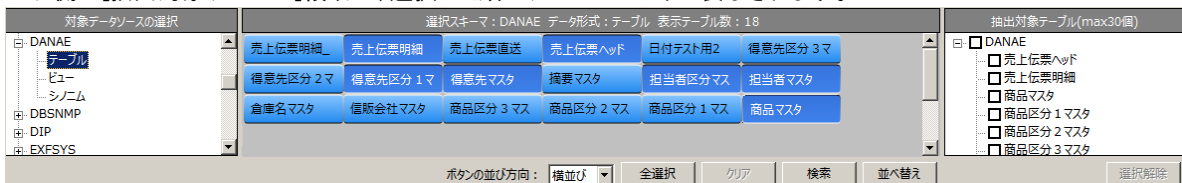
▼中央の[テーブル表示]領域に、テーブル名の一覧がボタンで表示されます。



下段にある[ボタンの並び方向]で、横並び/縦並びが指定できます。また、[並べ替え]でテーブルの表示順を変更できます。

- ② 中央の[テーブル表示]領域から、抽出したいテーブルのボタンを選択します。(複数指定可)
他にも抽出したいテーブルが別のスキーマ、テーブルにある場合は、手順①を繰り返します。なお、指定可能な上限数は30個です。

▼右側の[抽出対象テーブル]領域に、選択した順にテーブルがツリー表示されます。



テーブルボタン上で右クリックして表示される[カラム一覧参照]から、テーブル内のカラムが確認できます。テーブル選択の判断材料として利用してください。

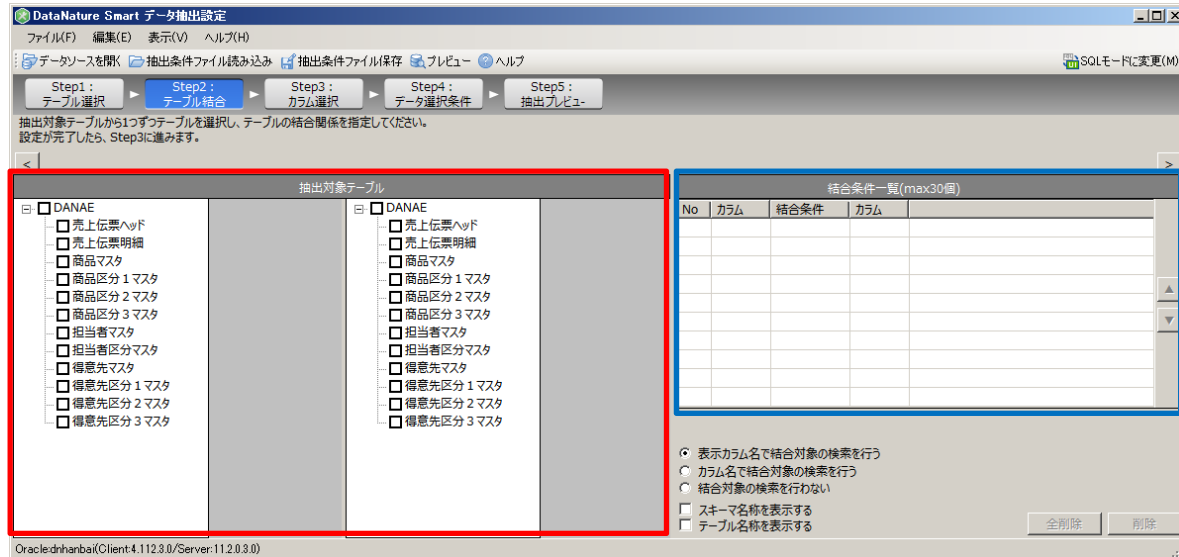
- ③ テーブルの選択は完了しました。次の Step を選択します。
◆複数のテーブルを選択した場合→[Step2: テーブル結合]へ進みます。
◆1つのテーブルだけを選択した場合→[Step3: カラム選択](S01-01_10)へ進んでください。
ここでは、複数のテーブルを選択したので、[Step2: テーブル結合]ボタンをクリックします。

Step2: テーブル結合

複数のテーブルを選択した場合、そのテーブル間で共通するカラムの結合を行います。

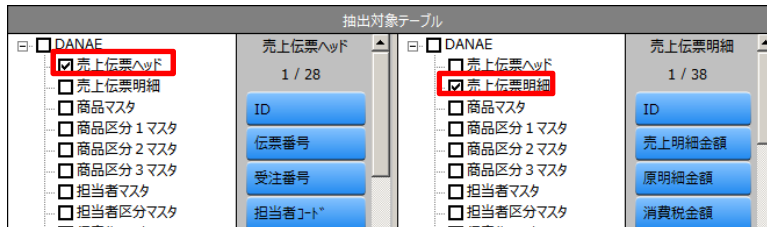
画面は、[抽出対象テーブル]、[結合条件一覧]の 2 つの領域で構成され、左側の[抽出対象テーブル]領域には、Step1 で選択したテーブル一覧が左右両方にツリー表示されています。

[抽出対象テーブル]と[結合条件一覧]は、領域上部の左右にある[<<]、[>>]ボタンで開閉できます。



- ① 左側の[抽出対象テーブル]領域にある左右のツリーから、共通のカラムを持つテーブルを選択します。

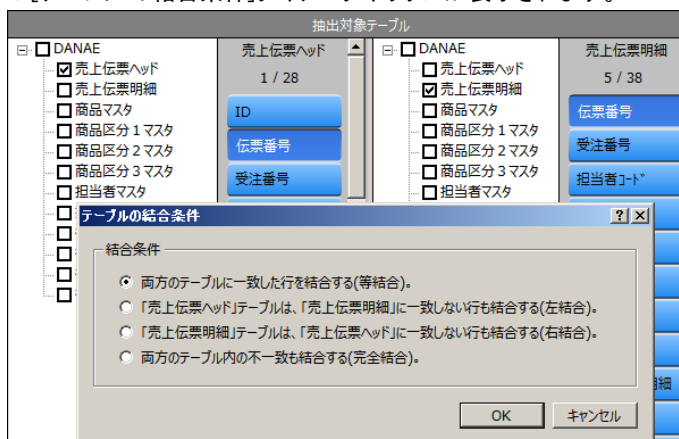
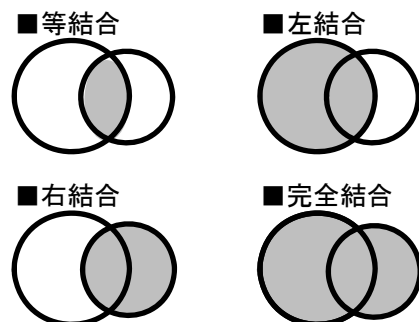
▼選択したテーブルのカラム一覧が、それぞれのツリー右横にボタン表示されます。



カラムのボタンが白色で表示されているものは、そのデータ型が本製品で未サポートであることを示しています。このような場合には、SQL モードで利用を試みてください。

- ② 左右のカラム一覧から、結合を行うカラムをひとつずつ選択します。

▼[テーブルの結合条件]ダイアログボックスが表示されます。

**結合条件のイメージ図**

*各結合の具体例はヘルプをご覧ください



コラム上で右クリックして表示される[データ参照]にて、各コラム内のデータを確認できます。また、[インデックス情報参照]では、該当テーブルに設定された情報を確認することができます。結合を行うコラムの判断材料として利用してください。

- ③ 結合条件を選択して、[OK]します。同じ手順で、結合を必要とするコラムを全て設定します。なお、指定可能な上限数は 30 個です。

▼結合を行ったコラムには同じ色がつき、[結合条件一覧]領域に設定内容がリスト表示されます。

▼3 個の結合条件を設定した例です。結合したコラムごとに色がつき見分けられやすくなっています。



上限数を超える結合や、複雑に組み合わせる場合には、SQLモードをご利用ください。



[結合条件一覧]には、コラム名が表示されていますが、スキーマ名やテーブル名も一覧に表示したい場合は、下段の[☐スキーマ名称を表示する]や [☐テーブル名称を表示する]にチェックオンします。



[結合条件一覧]では、設定内容の参照だけではなく、結合条件の変更、結合条件の優先順位の変更、結合条件の削除が行えます。

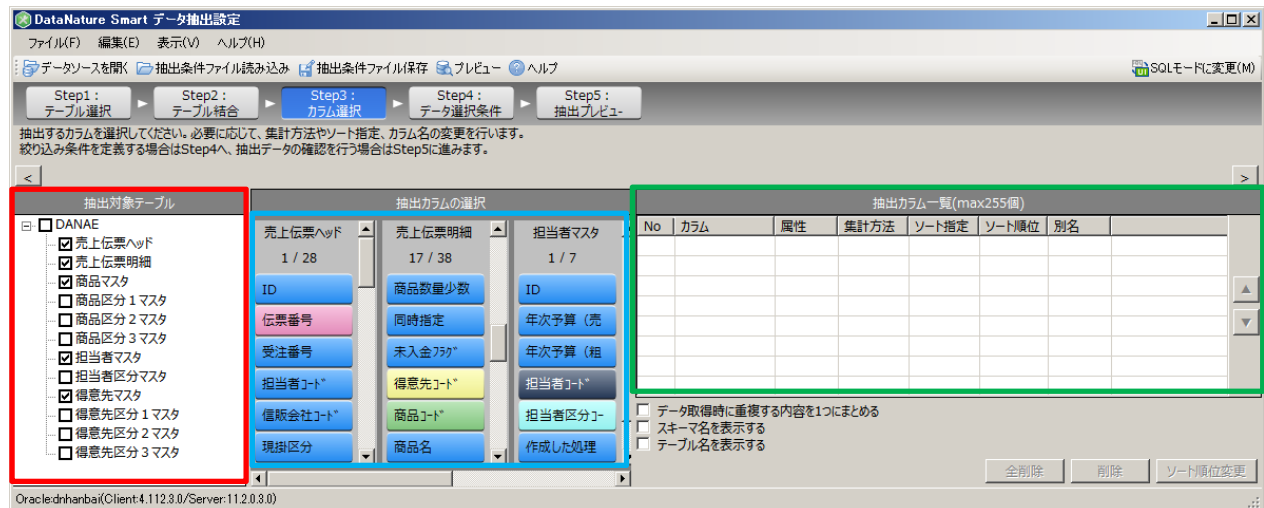
- ④ テーブル結合は完了しました。[Step3: カラム選択]ボタンをクリックします。

Step3: カラム選択

抽出するカラムを選択します。

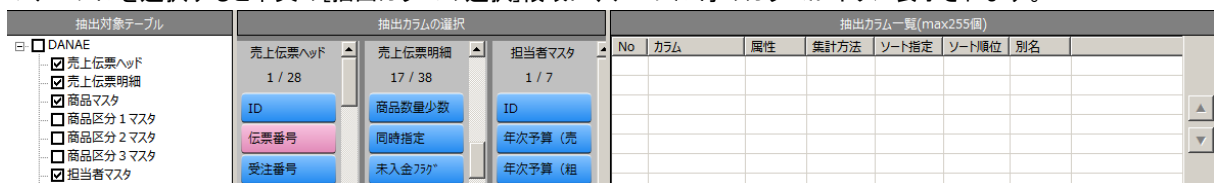
画面は、[抽出対象テーブル]、[抽出カラムの選択]、[抽出カラム一覧]の 3 つの領域で構成され、左側の[抽出対象テーブル]領域には、Step1 で選択したテーブル一覧がツリー表示されています。

[抽出対象テーブル]と[抽出カラム一覧]は、領域上部の左右にある[<>]、[>>]ボタンで開閉できます。



- ① 左側の[抽出対象テーブル]領域から、抽出したいカラムを含んでいるテーブルを選択します。

▼テーブルを選択すると中央の[抽出カラムの選択]領域に、テーブル毎のカラムがボタン表示されます。



[Step3: カラム選択]の画面を初めて開いた時(1回だけ)、[Step1: テーブル選択]もしくは[Step2: テーブル結合]で設定した情報を元に、左側の「抽出対象テーブル」領域のテーブルを自動選択します。

- ② [抽出カラムの選択]領域から、抽出するカラムのボタンをクリックします。なお、選択できるカラムの上限数は255個です。

▼選択したカラムが、[抽出カラム一覧]にリスト表示されます。



カラムのボタンが白色で表示されているものは、そのデータ型が本製品で未サポートであることを示しています。このような場合には、SQL モードで利用を試みてください。



カラム上で右クリックして表示される[データ参照]にて、各カラム内のデータを確認できます。また、[インデックス情報参照]では、該当テーブルに設定された情報を確認することができます。

- ③ 必要に応じて、[抽出カラム一覧]領域のカラム毎に、[集計方法]や[ソート指定]を設定します。

▼設定した通りに[抽出カラム一覧]に表示されます。

抽出カラム一覧(max255個)						
No	カラム	属性	集計方法	ソート指定	ソート順位	別名
1	伝票番号	VARC...	指定なし	昇順	1	
2	売上日付	VARC...	指定なし	昇順	2	
3	売上区分	VARC...	指定なし	指定なし	-	
4	担当者名	VARC...	指定なし	指定なし	-	
5	倉庫名	VARC...	指定なし	指定なし	-	
6	商品コード	VARC...	指定なし	指定なし	-	
7	商品名	VARC...	指定なし	指定なし	-	
8	入数	BINA...	指定なし	指定なし	-	
9	数量	BINA...	合計	昇順	3	
10	売上明細金額	VARC...	指定なし	指定なし	-	

☐ データ取得時に重複する内容を1つにまとめる
☐ スキーマ名を表示する
☐ テーブル名を表示する

全削除 削除 ソート順位変更

▼ドロップダウンリスト例

<集計方法>

指定なし ▼

指定なし

合計

件数

平均

最小

最大

<ソート指定>

指定なし ▼

指定なし

昇順

降順



[ソート順位]には[ソート指定]を設定した順に 1、2、3…と表示され、並べ替えの優先順になります。なお、[ソート指定]を 2 つ以上設定している場合には、下段右端の[ソート順位変更]ボタンが有効となり、ソート順位を変更できます。



[抽出カラム一覧]の[別名]でカラム名称を一時的に変更することができます。但し、今回の抽出条件でのみ適用される名称変更です。常にカラム名を変更しておきたい場合は、メニューバーの[ツール]-[データソースの管理]から[別名設定]を行う必要があります。別名保存の設定手順は S01-01_4「2-2 別名設定」を参照してください。

なお、「2-2 別名設定」と[抽出カラム一覧]の[別名]の両方でカラム名称を変更した場合は、[抽出カラム一覧]の[別名]で指定した方を優先します。



[抽出カラム一覧] のカラムの並び順(No.)が、そのまま抽出するデータ列の並び順となります。この並び順は、該当のカラムを選択して、右横の[▲]、[▼]ボタンで変更できます。



[抽出カラム一覧]には、カラム名が表示されていますが、スキーマ名やテーブル名も一覧に表示したい場合には、下段の[□スキーマ名を表示する]や [□テーブル名を表示する]にチェックオンします。

④ カラム選択は完了しました。次の Step を選択します。

◆特定の条件をつけてデータを抽出する場合→[Step4:データ選択条件]へ進みます。

◆条件なしでデータを抽出する場合→[Step5:抽出プレビュー](S01-01_14)に進んでください。

ここでは、抽出条件を設定するので、[Step4 データ選択条件]ボタンをクリックします。

Step4: データ選択条件

データを絞り込んで抽出するための設定を行います。

画面は、[カラム一覧]、[条件式定義]、[変数一覧]の3つの領域で構成され、左側の[カラム一覧]領域の[抽出カラム一覧]から選択するには、Step3で選択したカラムがボタン表示されています。また、[▼]ボタンからテーブルを選択することにより、他のテーブルのカラムもボタン表示されます。

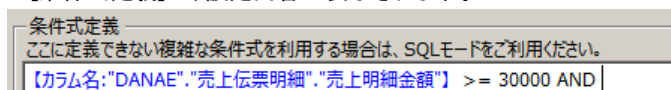
[カラム一覧]と[変数一覧]は、領域上部の左右にある[<<]、[>>]ボタンで開閉できます。



ここでは、「売上金額が 30,000 円以上の芝浦倉庫のデータを抽出する」という条件で設定方法を説明します。
[条件式定義]領域は、直接キーボードから入力できますが、マウス操作で簡単に設定することも可能です。



- ① まず、「売上明細金額が 30,000 円以上」の条件式を設定します。
 - [カラム一覧]にある「売上明細金額」ボタンをクリックします。
 - [直接入力]タブにある[比較演算子]から、「以上」をあらわす[≥]をクリックします。
 - [10 キー]を利用して[30000]をクリックします。
 - [AND]をクリックします。
 - ▼ [条件式定義]に、設定内容が表示されます。



- ② 次に、「芝浦倉庫」の条件式を設定します。
- [カラム一覧]にある<倉庫名>をクリックします。
 - [直接入力]タブにある[比較演算子]から、「等しい」をあらわす[=]をクリックします。
 - 「芝浦倉庫」のデータ情報を確認するために、[カラム一覧]の<倉庫名>ボタン上で右クリックします。
- ▼コンテキストメニューが表示されます。

- ③ [データ参照]をクリックします。
- ▼[データ参照]ダイアログボックスが表示されます。



カラムボタンから[データ参照]を行うと、そのカラム内のデータ内容の確認ができます。また、データを選択して条件式にそのまま反映することもできます。左下の[+抽出オプション]は、カラムのデータ型によって内容が異なります。

- ④ 倉庫名リストから「芝浦倉庫」をクリックします。
- ▼[条件式定義]に設定内容が表示されます。



他の入力補助機能として、[日付期間条件入力]、[日付算術条件入力]があります。日付条件を設定する場合に活用してください。内容の詳細はヘルプをご覧ください。

- ⑤ データ選択条件の設定は完了しました。[Step5: 抽出プレビュー]ボタンをクリックします。



抽出条件ファイルを DN クライアントで読み込むことが可能ですが、選択条件で変数を利用した抽出を行う場合は、別途、変数を利用するための設定を追加する必要があります。設定手順については、S01-01_18「3-3 変数利用設定」を参照してください。

Step5: 抽出プレビュー

各 Step で設定した情報を元に、DBMS へアクセスし、抽出するデータの内容を確認します。データ内容を確認できたら、これまでの Step で設定した内容を保存します。

画面は、「SQL 文」タブ、「プレビュー」タブの 2 種類のタブで構成されています。

「SQL 文」タブには、Step1 から設定した情報を元に作成された SQL 文が表示されます。「プレビュー」タブには、DBMS から抽出したデータを表示します。

件数確認

件数指定 50 件

指定無し(最大10,000件)

プレビュー

抽出条件ファイル保存

CSVファイル保存件数

件数指定 50 件

全件

CSVファイル保存

SQL文

プレビュー

SELECT

"DANAЕ":売上伝票ヘッド,"伝票番号",

"DANAЕ":売上伝票ヘッド,"売上日付",

"DANAЕ":売上伝票明細,"売上区分",

"DANAЕ":担当者マスタ,"担当者名",

"DANAЕ":倉庫名マスタ,"倉庫名",

"DANAЕ":売上伝票明細,"商品コード",

"DANAЕ":商品マスタ,"商品名",

"DANAЕ":売上伝票明細,"入数",

SUM("DANAЕ":売上伝票明細,"数量") as "数量",

"DANAЕ":売上伝票明細,"売上明細金額"

FROM

"DANAЕ":売上伝票ヘッド,

"DANAЕ":売上伝票明細,

"DANAЕ":担当者マスタ,

"DANAЕ":商品マスタ,

"DANAЕ":倉庫名マスタ

WHERE

"DANAЕ":売上伝票ヘッド,"伝票番号" = "DANAЕ":売上伝票明細,"伝票番号"

AND "DANAЕ":売上伝票ヘッド,"担当者コード" = "DANAЕ":担当者マスタ,"担当者コード"

AND "DANAЕ":売上伝票明細,"商品コード" = "DANAЕ":商品マスタ,"商品コード"

AND "DANAЕ":売上伝票明細,"倉庫番号" = "DANAЕ":倉庫名マスタ,"倉庫番号"

AND ("DANAЕ":売上伝票明細,"売上明細金額" >= 30000 AND "DANAЕ":倉庫名マスタ,"倉庫名" = '芝浦倉庫')

GROUP BY

"DANAЕ":売上伝票ヘッド,"伝票番号",

SQL発行時にas句を省略する

OracleDnhanbai(Client:4.112.3.0/Server:11.2.0.3.0)

① [件数確認]ボタンをクリックしてデータ件数を確認します。

▼[件数確認]欄に<***>件と表示されます。この件数が CSV ファイルに出力されるレコード件数となります。

件数確認

件数指定 119,000 件

指定無し(最大10,000件)

プレビュー

抽出条件ファイル保存

CSVファイル保存件数

件数指定 50 件

全件

CSVファイル保存

SQL文

プレビュー

SELECT

"DANAЕ":売上伝票ヘッド,"伝票番号",

"DANAЕ":売上伝票ヘッド,"売上日付",

"DANAЕ":売上伝票明細,"売上区分",

② [プレビュー]ボタンをクリックしてデータを抽出します。

[プレビュー]アイコンからでも取得できます。

▼[プレビュー]タブにデータ内容(一部)が表示されます。

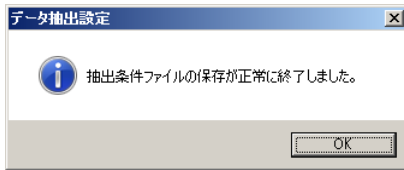
SQL文		プレビュー								
	伝票番号	売上日付	売上区分	担当者名	倉庫名	商品コード	商品名	入数	数量	売上明細金額
1	0000000003	2015 412	0	石井 靖	芝浦倉庫	F-00002	観葉植物	0	10	50000
2	0000000004	2015 412	0	河合 正信	芝浦倉庫	J-10004	パインダ - B-125	12	1200	540000
3	0000000004	2015 415	0	河合 正信	芝浦倉庫	J-10001	クリアファイル K-77	30	1200	210000



[プレビュー件数]欄でプレビュー確認する件数を指定することができます。(最大 10,000 件まで)

③ [プレビュー]タブに表示されたデータを確認して、抽出したいデータ内容に相違がなければ、[抽出条件ファイル保存]ボタンをクリックして、各 Step で設定してきた条件を保存します。
[抽出条件ファイル保存]アイコンからでも保存できます。

- ④ [名前を付けて保存する]ダイアログボックスで、保存先とファイル名を入力して、[保存]ボタンをクリックします。
▼抽出条件ファイル(*.ecox)の保存が完了しました。



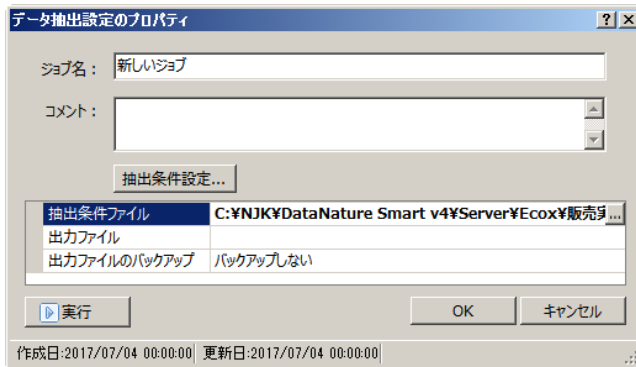
「データ抽出設定のプロパティ」(S01-01_5)で事前にジョブ名を決定しておくと、ジョブ名と同じ抽出条件ファイル名で保存することができます。



[CSV ファイル保存]ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示され、テスト実行することができます。

- ⑤ [OK]ボタンをクリックします。これで[データ抽出設定]は完了です。メニューバー[ファイル]-[管理ツールに戻る]をクリックします。

▼[データ抽出設定のプロパティ]ダイアログボックスに戻り、[抽出条件ファイル]欄に、保存したファイル名とそのパス情報が表示されています。



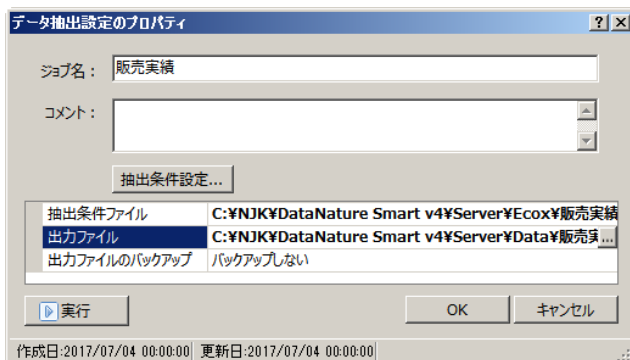
◆ ジョブの設定

データ抽出設定のプロパティ画面でジョブを設定します。

- ① [ジョブ名:]テキストボックスに、ジョブ名を入力します。
- ② [コメント:]テキストボックスに、データ抽出設定についての説明などを任意に入力します。
- ③ 続いて、処理対象となるファイルを指定します。

抽出条件ファイル 設定した抽出条件ファイル(*.ecox)を指定します。
出力ファイル 抽出条件設定の結果を出力するファイルを指定します。

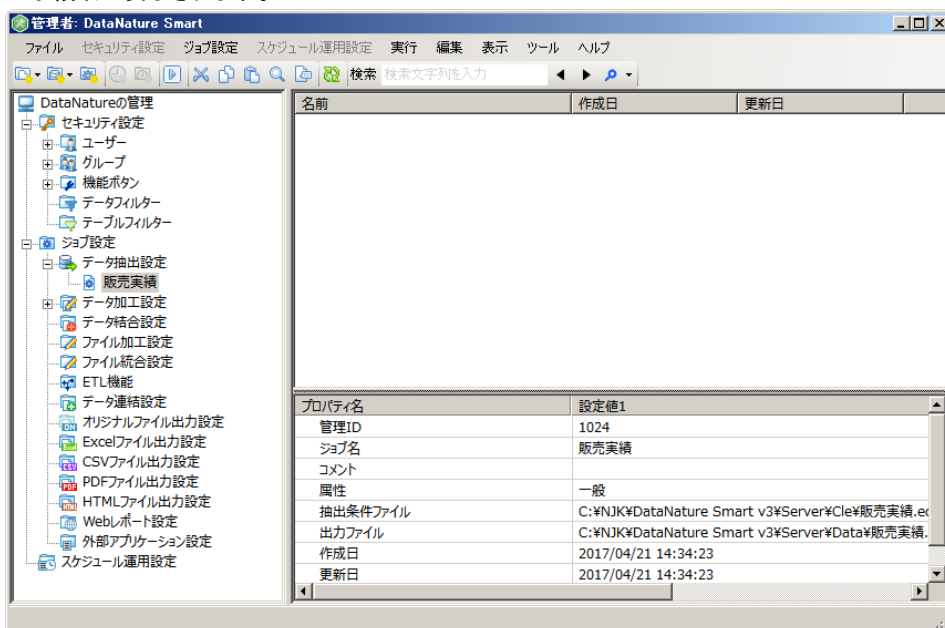
▼入力した情報が表示されます。



[実行]ボタンをクリックすると、[出力件数の設定]ダイアログボックスが表示され、件数を限定してテスト実行することができます。

4 設定が完了しましたので、[OK]ボタンをクリックし、ジョブを登録します。

▼[データ抽出設定のプロパティ]ダイアログボックスが閉じ、管理ツールの画面に戻ります。設定した内容がプロパティ表示領域に表示されます。



3-2 抽出条件の修正

保存済みの抽出条件ファイル(*.ecox)の修正を行います。

- 1 DN管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[データ抽出設定]ノード上に登録されている処理の中から修正を行いたいジョブ上で右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

▼[データ抽出設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

データ抽出設定のプロパティ

ジョブ名: 販売実績

コメント:

抽出条件設定...

抽出条件ファイル: C:\NJK\DataNature Smart v4\Server\Ecox\販売実績
出力ファイル: C:\NJK\DataNature Smart v4\Server\Data\販売実績
出力ファイルのバックアップ: バックアップしない

実行 OK キャンセル

作成日: 2017/07/04 18:49:12 更新日: 2017/07/04 18:49:12

- 2 [抽出条件設定]ボタンをクリックします。

▼[DataNature Smart データ抽出設定]画面が表示されます。表示画面は抽出条件保存時(Step5)の画面です。

DataNature Smart データ抽出設定 [C:\NJK\DataNature Smart v4\Server\Ecox\販売実績.ecox]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ヘルプ(H)

データソースを開く 抽出条件ファイル読み込み 抽出条件ファイル保存 プレビュー ヘルプ SQLモードに変更(M)

Step1: テーブル選択 Step2: テーブル結合 Step3: カラム選択 Step4: データ選択条件 Step5: 抽出プレビュー

抽出データの件数や内容の確認ができます。

件数確認 件数指定 50 指定無し(最大10,000件) プレビュー 抽出条件ファイル保存 CSVファイル保存件数 件数指定 50 全件 CSVファイル保存

SQL文 プレビュー

SELECT "DANA": "売上伝票ヘッド", "伝票番号", "DANA": "売上伝票ヘッド", "売上日付",

- 3 設定を変更したい Step 画面を選択し、必要な修正を行います。



設定方法は、各 Step 画面のページを参照してください。

Step 名称	設定内容	参照ページ
Step1: テーブル選択	抽出するデータのテーブルを選択します	S01-01_7
Step2: テーブル結合	テーブル間の結合条件を指定します	S01-01_8
Step3: カラム選択	抽出するカラムを選択します	S01-01_10
Step4: データ抽出条件	抽出するデータの選択条件を定義します	S01-01_12
Step5: 抽出プレビュー	抽出するデータの件数や内容を確認します。	S01-01_14

- 4 修正が完了したら、抽出条件ファイル(*.ecox)を上書き保存します。



データ抽出設定画面のメニューバー[ファイル]-[抽出条件ファイル読み込み]から、保存済みの抽出条件ファイル(*.ecox)を読み込めば、管理ツールに戻ることなく、必要な抽出条件ファイル(*.ecox)を手早く修正することができます。

3-3 変数利用設定

DN クライアントで抽出条件ファイル(*.ecox)を利用する際、変数を指定してデータ抽出を行えるように設定します。



変数情報を指定できるのは、DataNature Smart フォルダ経由でファイルを読み込んだ場合だけです。変数情報を DN クライアントで指定させる場合は、必ず抽出条件ファイル(*.ecox)を DataNature Smart フォルダ配下に保存してください。



SQL Server を接続先に行っている場合、ODBC データソースの「SQL Server が、ログイン ID の権限の確認を行う方法は？」の設定は、「ユーザーが入力する SQL Server 用のユーザーID とパスワードを使う。」にしてください。一方の Windows 認証にしていると、DataNature Smart クライアントツールで接続エラーとなりご利用頂けません。

◆ DN 管理ツールでの設定

データ抽出設定で変数利用設定を追加します。

- 1 DN管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[データ抽出設定]ノード上に登録されている処理の中から DN クライアントで利用したいジョブ上で右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

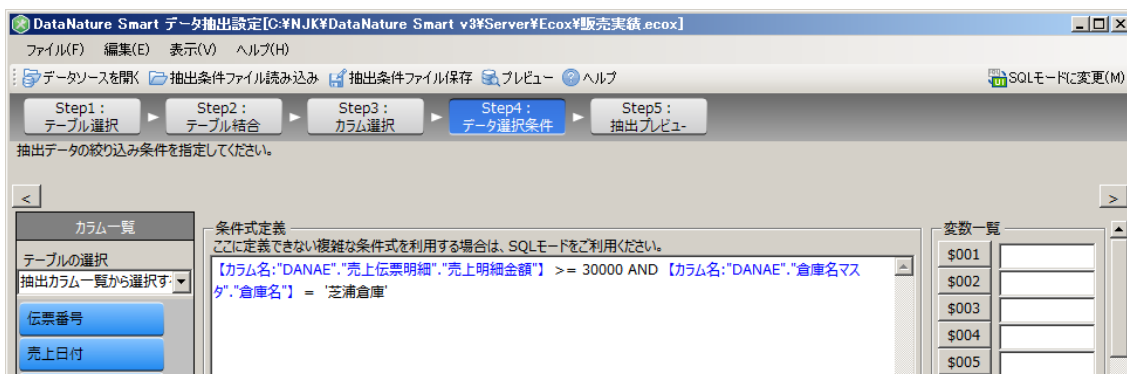
▼[データ抽出設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [抽出条件設定]ボタンをクリックします。

▼[DataNature Smart データ抽出設定]画面が表示されます。表示画面は抽出条件保存時(Step5)の画面です。

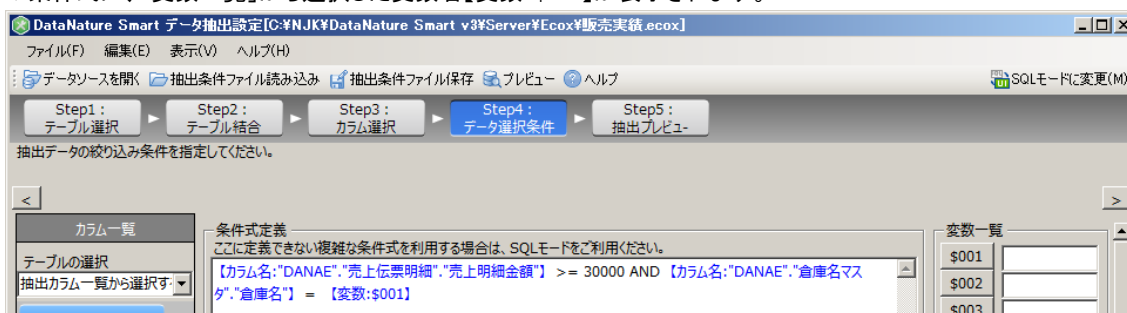
- 3 [Step4: データ選択条件]ボタンをクリックします。

▼[データ選択条件]画面が表示されます。



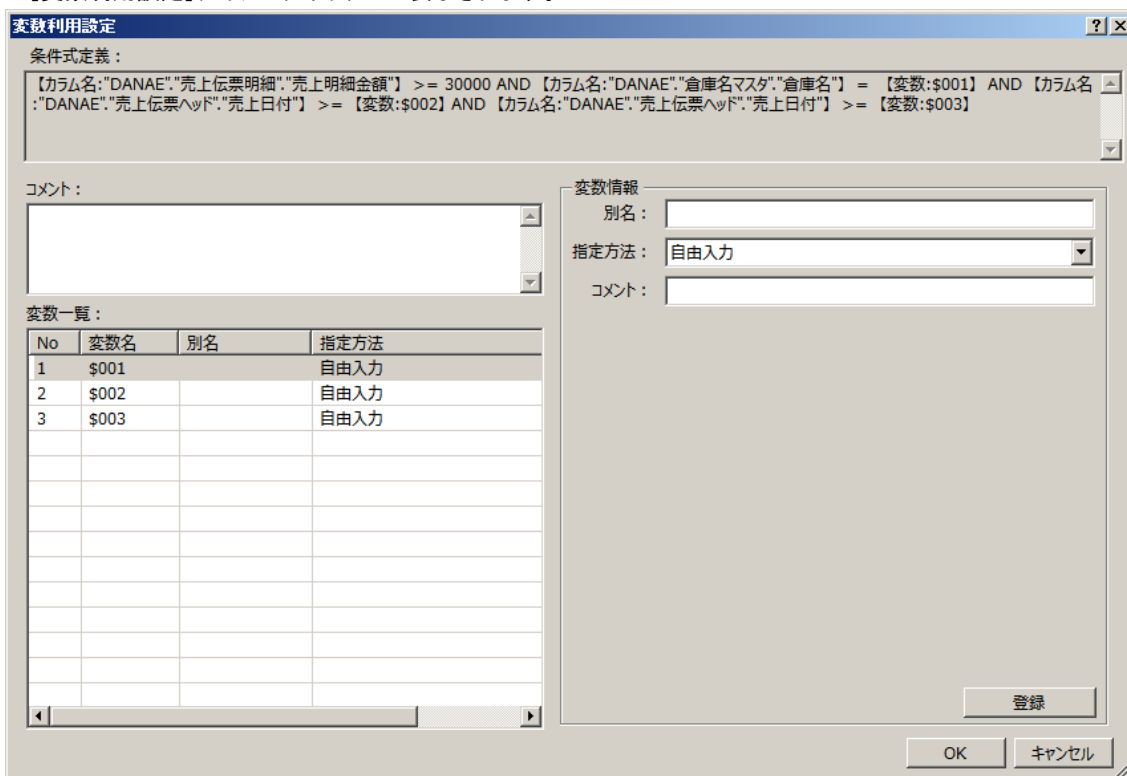
- ④ DN クライアントで条件を入力させたい条件に変数を設定を変更します。変数は、「\$001」～「\$020」まで利用できます。

▼条件式に、「変数一覧」から選択した変数名【変数: \$00x】が表示されます。



- ⑤ 定義後、ユーザーに指定させる変数内容を設定するため、[ファイル]-[変数利用設定]をクリックします。

▼[変数利用設定]ダイアログボックスが表示されます。



- ⑥ コメントや変数情報を設定します。

■コメント:

DN クライアントで表示される[条件定義]画面に記載するコメントを入力します。

■変数一覧:

条件式定義で設定した変数の一覧が表示されます。各変数を選択して、変数情報を設定します。

■変数情報:

別名: 変数の別名を設定します。設定した内容は、「変数\$00x」の横に表示されます。

指定方法: 変数の指定方法を、次の4つからそれぞれ選択します。

- 自由入力 ユーザーが直接テキスト欄に条件を入力できるようになります。
- 設定したリストから選択 ユーザーに選択させるドロップダウンリストの項目を、「選択項目」に入力して追加します。
- 指定ファイルの項目から選択 ユーザーに選択させるドロップダウンリストの項目を、指定したファイルから設定します。
- 管理ツールの変数を利用 ユーザーが使用する項目について、管理ツールで設定している変数を利用します。

コメント: 変数ごとにコメントを設定できます。

- 7 各変数ごとに、設定を行い[登録]ボタンをクリックします。

変数利用設定

条件式定義:
 【カラム名:"DANAE","売上传票明細","売上明細金額"] >= 30000 AND 【カラム名:"DANAE","倉庫名マスタ","倉庫名"] = 【変数:\$001】 AND 【カラム名:"DANAE","売上传票ヘッ","売上日付"] >= 【変数:\$002】 AND 【カラム名:"DANAE","売上传票ヘッ","売上日付"] >= 【変数:\$003】

コメント:
 必要に応じて、倉庫名と日付の抽出対象を指定してください。

変数一覧:

No	変数名	別名	指定方法
1	\$001	倉庫名	指定ファイルの項目から選択
2	\$002	売上日付 (開...	自由入力
3	\$003	売上日付 (終...	自由入力

変数情報

別名: 倉庫名

指定方法: 指定ファイルの項目から選択

コメント: 以下の項目から選択してください。

C:\%NJK\DataNature Smart v3*Server*Master*倉庫名.csv ...

No	選択項目
1	山下倉庫
2	倉庫未設定
3	横浜港倉庫
4	芝浦倉庫
5	練馬倉庫

登録

OK キャンセル

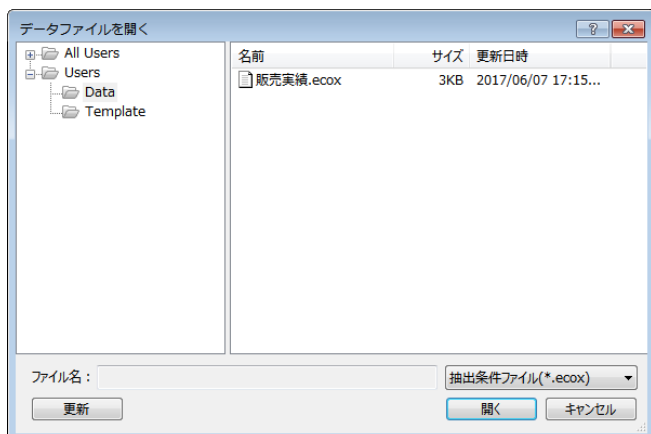
- 8 設定後、[OK]ボタンをクリックし、抽出条件ファイル(*.ecox)を DataNature Smart フォルダ配下に保存します。

◆ 抽出条件ファイルを DN クライアントで読み込む

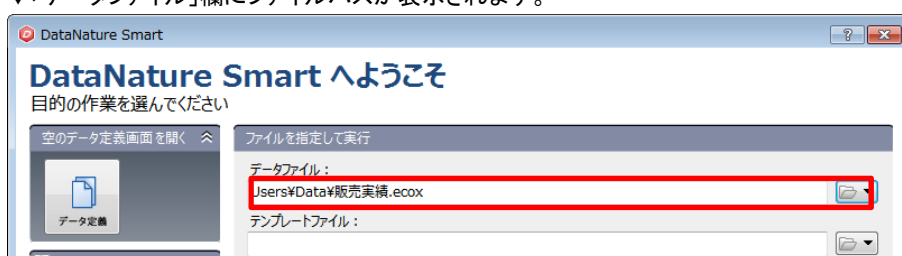
データ抽出設定で作成した抽出条件ファイル(*.ecox)を DN クライアントで読み込みます。

- 1 DNクライアントを起動し、「データファイル」に DataNature Smart フォルダに格納された抽出条件ファイル(*.ecox)を指定します。

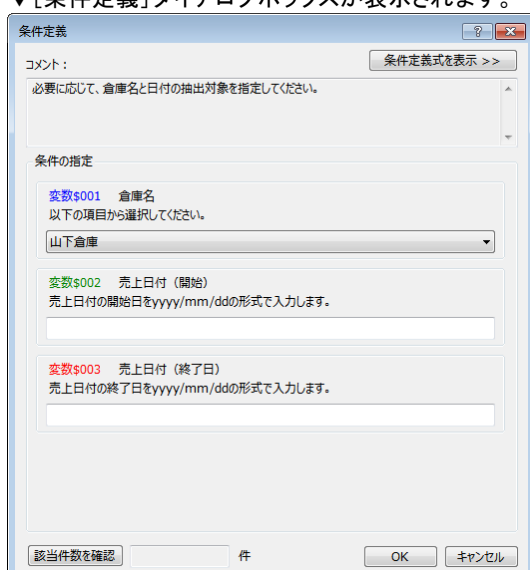
▼[データファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。



- ② ファイルの保存先、ファイルの種類(拡張子)、ファイル名をそれぞれ指定し、[開く]ボタンをクリックします。
▼「データファイル」欄にファイルパスが表示されます。



- ③ [実行]ボタンをクリックします。
▼[条件定義]ダイアログボックスが表示されます。



- ④ DN 管理ツールで設定した変数情報が表示されますので、必要な条件を指定し[OK]ボタンをクリックします。



[該当件数を確認]ボタンをクリックすると、指定した条件に該当するデータ件数を確認できます。

▼指定した条件に従ってデータ抽出が行われ、対象データが DN クライアントに読み込まれます。

